

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-237	高等学校	外国語	コミュニケーション英語 II	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
212 桐原	コ II 353	PRO-VISION English Communication II New Edition		

1. 編修の基本方針

教育基本法第 2 条に示す教育目標を達成するため、題材は、生徒の発達段階を考慮に入れつつ、個人の成長に資するだけでなく、個人と社会の相互補完的な関係について考える機会を設けるものを選定した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Lesson 1 The Freedom to Be Yourself	人類の多様性を受け入れ、自己の興味・関心と適性を生かし、自らの進むべき道を開拓する人物として、ボーダーレスに生きる漫画家ヤマザキマリ氏を紹介した。(第 2 号)	5～16 ページ
Lesson 2 Are You Really a Sloth?	森と共生して平和に暮らすナマケモノの生態を知る。生命を尊び、自然を大切にし、環境保全に寄与する態度を養う。(第 4 号)	17～30 ページ
Lesson 3 Mount Fuji – The Eternal Mountain	ユネスコ世界文化遺産に登録された富士山を通じて、日本の伝統文化に加え、それらが他国に与えた影響を学ぶ。自国だけでなく他国の文化に対する考え方や感じ方を深める。(第 5 号)	31～46 ページ
Lesson 4 Handwriting in the Digital Age	デジタル化社会がもたらす利点や弱点を考えることによって、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。(第 1 号)	47～60 ページ
Lesson 5 Designed to Change the World	デザインので開発途上国の人びとの暮らしを変える取り組みを紹介した。より良い社会の実現のために、社会全体が負う課題と個人が果たすべき責任について考える。(第 3 号)	61～76 ページ
Lesson 6 The First Olympics	古代オリンピック発祥から近代オリンピック復活までの歴史やそれを支えた理念をたどり、生徒の知的な興味・関心を強く喚起しながら、広範な知識と多様な物の見方を身に付ける。(第 1 号)	77～92 ページ
Lesson 7 The Dark, Mysterious Universe Deep under the Ocean	さまざまな深海生物の生態から、宇宙生命が存在する可能性までを考察する。生命の神秘と自然の驚異を学習し、生命の尊さと重要性を伝える。(第 4 号)	93～106 ページ

Lesson 8 The Story of the Teddy Bear	ハンディキャップを乗り越えて生きた女性の人生を通じ、より良い社会の実現のために主体的に社会にかかわることの重要性を伝える。(第3号)	107～120 ページ
Lesson 9 Laughter is the Best Medicine	笑いのメカニズムを科学的、心理学的、社会学的観点から考察する。生徒の知的な興味・関心を喚起し、豊かな情操を培うとともに、健やかな身体を養う。(第1号)	121～134 ページ
Lesson 10 The Underground Reporters	ナチスによる迫害を受けたユダヤ人の少年少女たちが、自分たちの自由と誇りを守るために手作りの新聞を発行した。個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主の精神を養う。(第2号)	135～151 ページ
Reading 1 The Love Letter	ニューヨークに住む青年が、骨董店の隠し引き出しから80年前に書かれた一通のラブレターを見つけ、そこから80年の時を超えた恋愛が始まる。小説を読み、豊かな情操と道徳心を培う。(第1号)	152～159 ページ
Reading 2 Humming Through My Fingers	目の見えない女子生徒に話しかけた男子生徒が、しだいに互いを理解し合っていく心情の変化をつづる。小説を読み、豊かな情操と道徳心を培う。(第1号)	160～169 ページ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・ 与えられた情報の中のポイントとなる事柄を理解し、その概要を発信する能力を養うことをめざした。(Summarizing)
- ・ 生徒参画型の教科書をめざして、理解だけにとどまることなく、表現にいたるまでの活動を充実させた。(Listen & React)
- ・ コミュニケーションのための文法という考え方に立ち、生徒が発信する観点から文法事項および内容を精選した。(Grammar for Communication)

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-237	高等学校	外国語	コミュニケーション英語 II	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
212 桐原	コ II 353	PRO-VISION English Communication II New Edition		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・基礎的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを適切に活用する能力をはぐくむために、中学校や高等学校における文法事項などの学習内容を、比較的平易な内容からより難しい内容へと段階的に配列した。また、文法事項等について、コミュニケーション英語 I で学習した内容をさらに発展させた内容を盛り込んだ。
- ・自他の生命や、自国の伝統・文化を尊重する精神を養い、主体的によりよい社会を実現しようとする態度を養うために、自然・生命の尊さ、日本の伝統文化の可能性、環境問題、社会参加などの題材を採用した。
- ・生徒の言語や文化に対する理解を深めることをめざして、文構造や文法事項を適切に運用する能力を養うための解説と言語活動を設けるとともに、多様な国内外の文化を知ることができる題材を取り上げた。
- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために、自分の考えを話したり書いたりする言語活動を充実させた。
- ・情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養うために、生徒に身近な言語の使用場面を設定し、「読む」「聞く」「書く」「話す」を総合的・有機的に関連させた活動を多く設けた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1. 本課 (Lesson 1~10) ①扉ページの写真と日本語リード文 ・本文の背景情報を示し、本文に関する生徒の既知の知識を活性化させる。	●「2 内容」の(2)のウ 背景となる知識を活用しながら読む。	各課の扉ページの写真と日本語リード文	各 8 時限 (計 10 課)
②本文	●「2 内容」の(1)のイ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。 ●「2 内容」の(2)のイ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読む。	各課の本文 同上	
③Get the Picture ・本文の要点を把握させるための質問。口頭または文字による英問英答の活動。	●「2 内容」の(2)のイ 論点や根拠などを明確にする。	各課本文の傍注	
	●「3 内容の取扱い」の(1) 聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導する。	同上	

<p>④Summarizing</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に関する英文を聞いて、内容の正誤を確認する（設問 1）。 本文の各パート・各段落の要点を問う問題。それぞれの要点を把握するだけでなく、各パート・各段落の役割と本文全体の流れを理解できるように示した（設問 2）。 本文の各パートの要点を確認した上で、本課で学習した内容を簡潔に要約する課題（設問 3）。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「2 内容」の(1)のア 事物に関する紹介などを聞いて、情報や考えなどを理解する。 ● 「2 内容」の(1)のイ 説明、評論、随筆などについて、概要や要点を把握する、必要な情報を探すなどの目的に応じた読み方をする。 ● 「2 内容」の(1)のエ 読んだり、学んだりしたに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 	<p>12, 26, 42, 56, 72, 88, 102, 116, 130, 146 ページ 同上 同上</p>	<p>各 1 時限 (計 10 課)</p>
<p>⑤Listen & React</p> <p>L</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文に関連する内容の英文を聞いて、その内容を確認する問題。 各言語活動の設定にあたっては、学習指導要領の第 3 款の 1 の [言語の使用場面の例] から適宜選択して取り上げた。 <p>R</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文に関連したテーマや本文の内容について、意見や感想を述べたり、話し合ったりする活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「2 内容」の(1)のア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 ● 「2 内容」の(2)のア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞く。 ● 第 3 款の 1 [言語の使用場面] <ul style="list-style-type: none"> a 特有の表現がよく使われる場面 b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面 c 多様な手段を通じて情報などを得る場面 ● 「3 内容の取扱い」の(1) 聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導する。 ● 「2 内容」の(2)のエ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりする。 ● 「2 内容」の(1)のウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 ● 「2 内容」の(2)のア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話す。 ● 「2 内容」の(1)のエ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどにつ 	<p>13, 27, 43, 57, 73, 89, 103, 117, 131, 147 ページ 同上 13, 57, 147 ページ 13, 57, 131, 147 ページ 27, 43, 73, 89, 103, 117 ページ 13, 27, 43, 57, 73, 89, 103, 117, 131, 147 ページ 同上 57, 147 ページ 13, 57, 73, 89, 117, 147 ページ 27, 43, 73 ページ</p>	<p>各 1 時限 (計 10 課)</p>

<p>・各言語活動の設定にあたっては、学習指導要領の第3款の1の「言語の使用場面の例」, 「言語の働きの例」から適宜選択して取り上げた。</p>	<p>いて、まとまりのある文章を書く。</p> <p>●「2 内容」の(2)のイ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図版との関連などを考えながら書く。</p> <p>●第3款の1「言語の使用場面」</p> <p>a 特有の表現がよく使われる場面</p> <p>b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面</p> <p>●第3款の1「言語の働き」</p> <p>a コミュニケーションを円滑にする</p> <p>b 気持ちを伝える</p> <p>c 情報を伝える</p> <p>d 考えや意図を伝える</p>	<p>同上</p> <p>13, 89, 117, 147 ページ</p> <p>13, 43, 57, 117 ページ</p> <p>147 ページ</p> <p>89, 117 ページ</p> <p>27, 43, 73 ページ</p> <p>13, 57, 103, 131 ページ</p>	
<p>⑥Grammar for Communication</p> <p>・Focus : 英語表現において特に重要と思われる文法項目を中心に扱った。</p> <p>・Structures & Expressions : 文構造のうち運用度の高いもの, テンス・アスペクト・ヴォイスなどの複合表現などを中心に扱った。</p> <p>・Task : 文法項目を適切に運用する能力を養うための活動を設定した。</p>	<p>●第3款の2のイ 文構造のうち、運用度の高いもの(以下は例)</p> <p>・無生物主語の構文</p> <p>・there を用いた表現</p> <p>・主語+動詞+間接目的語+that で始まる節</p> <p>・主語+動詞+間接目的語+what など始まる節</p> <p>・主語+seem など+to 不定詞</p> <p>・It+seem など+that で始まる節</p> <p>・suggest that+S+(should) 動詞の原形</p> <p>●第3款の2のウ 文法事項</p> <p>(ア) 不定詞の用法</p> <p>(イ) 関係代名詞の用法</p> <p>(ウ) 関係副詞の用法</p> <p>(エ) 助動詞の用法</p> <p>(オ) 代名詞のうち, it が名詞用法の句及び節を指すもの</p> <p>(カ) 動詞の時制など</p> <p>(キ) 仮定法</p> <p>(ク) 分詞構文</p> <p>●第3款の3のイ 文法については、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。</p>	<p>45 ページ</p> <p>119 ページ</p> <p>133 ページ</p> <p>133 ページ</p> <p>133 ページ</p> <p>133 ページ</p> <p>133 ページ</p> <p>149 ページ</p> <p>45, 105, 149 ページ</p> <p>59, 75 ページ</p> <p>74, 75 ページ</p> <p>15, 29, 44 ページ</p> <p>133 ページ</p> <p>14, 28, 29, 105 ページ</p> <p>118 ページ</p> <p>15 ページ</p> <p>14, 15, 28, 29, 44, 45, 58, 59, 74, 75, 90, 91, 104, 105, 118, 119, 132, 133, 148, 149 ページ</p>	<p>各1時限 (計10課)</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で学習する文法項目も取り上げ、定着を図れるようにした。 (例) 時制, 未来表現, 不定詞, 関係代名詞, 関係副詞, It is + 形容詞 + to do など。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「3 内容の取扱い」の(2) 多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮する。 	<p>ージ</p> <p>14, 28, 44, 58, 74, 90, 104, 148 ページ</p>	
<p>⑦Language Resources</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文のテーマに関連する語彙ネットワークを完成させる。特定のテーマに沿って、既習の語彙を整理しつつ、さらに語彙を増やす。 ・Lesson 10 では語形成に着目させ、未知語の意味を推測させるコラムを設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「3 内容の取扱い」の(2) 多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮する。 ● 「2 内容」の(2)のウ 未知の語の意味を推測しながら聞いたり読んだりする。 	<p>16, 30, 46, 60, 76, 92, 106, 120, 134, 150 ページ</p> <p>151 ページ</p>	<p>各 1 時限 (計 10 課)</p>
<p>2. Reading 1, 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精読させるため、登場人物の言動や心理を問う質問を適宜設けた。 ・Reading 1 の本文最終ページに、物語を朗読する際のポイントを示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「2 内容」の(1)のイ 物語を読んだ、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 	<p>152-169 ページ</p>	<p>各 8 時限 (計 2 課)</p>
<p>3. Skills and Strategies for Communication</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文／意見文／物語文：テキストタイプに応じた読み方を学習する。 ・ディスコース・マーカー：論理の流れを把握したり、論理展開の明確な英文を書いたりするために、ディスコース・マーカーの役割を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「2 内容」の(1)のイ 説明、評論、物語などについて、テキストタイプの特性に応じた速読や精読をする。 ● 「2 内容」の(2)のイ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成を考えながら読んだり書いたりする。 	<p>170-175 ページ</p> <p>176-179 ページ</p>	<p>4 時限</p>
<p>4. Lexical Grammar</p> <ul style="list-style-type: none"> ・that, it, can, should, a[an], the の根本語義と、それから派生する様々な意味や用法を学ぶことで、語の運用能力を養うことをねらいとした。学習者が必要に応じて参照できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「3 内容の取扱い」の(2) 多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮する。 	<p>180-185 ページ</p>	
<p>5. 動詞のコアイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味が似ている 8 組の動詞の根本語義と、それから派生する様々な意味や用法を学ぶことで、語の運用能力を養うことをねらいとした。学習者が必要に応じて参照できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「3 内容の取扱い」の(2) 多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮する。 	<p>前見返し 後見返し</p>	